

平成19年度（前期）共同研究実施状況

課題研究	「パルスおよび高周波 ESR を用いたスピン科学研究の新しい展開」を始め2件
協力研究	「高周期14族元素を骨格に有する特異な芳香族系の構築とその電子状態及び物性の解明」を始め44件
UVSOR施設利用	「MFI上のMoOx触媒活性種のL-XANESによる微細構造解析」を始め70件
施設利用	「新規なキャリア輸送材料の合成と電子デバイスへの応用」を始め25件

平成19年度（前期）分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2007年 5月22日（火） ～23日（水）	生細胞の分子科学	太田 信廣 （北海道大学電子科学研究所）	64名
2007年 6月 1日（金） ～ 3日（日）	金属と分子集合——新領域創成をめざして——	上野 隆史 （名古屋大学大学院理学研究科）	60名
2007年 6月23日（土）	若手分子科学研究者のための物理化学研究会	濱口 宏夫 （東京大学大学院理学系研究科）	15名
2007年 8月29日（水） ～31日（金）	分子科学における連成シミュレーションの基礎理論と応用	青柳 睦 （九州大学情報基盤研究開発センター）	40名
2007年 9月10日（月） ～11日（火）	放射光と表面電子顕微鏡——顕微ナノ材料科学の新しい進展——	朝倉 清高 （北海道大学触媒化学研究センター）	45名
2007年 9月28日（金） ～29日（土）	分子情報通信のサイエンス基盤	宇理須恒雄 （分子科学研究所）	40名

共同利用研究とは？



分子科学研究所は、極端紫外光研究施設、及び、計算科学研究センターなどの大型施設を「施設利用」という形で当該分野コミュニティの研究者の利用に供しています。また、機器センターにおいて、先端的な装置を共同利用に供すると共に、測定法や物質合成手法の開発、共同研究の実施等を当該分野の研究者との連携の下で行う「課題研究」を支援しています。さらに、これらセンターならびに各研究系における研究資源を広く解放し、研究者の個別なニーズに応じて共同利用研究を行う「協力研究」があります。これらのハードウェアを中心とした共同利用と共に、

当該分野の特定の課題に関する討論を深め、更なる新しい発展を探るための有効な手段として、所外の研究者の提案を基にしたワークショップである「分子研研究会」を毎年複数回開催しています。

申込受付は年2回、分子研ホームページより公募書類をダウンロード出来ます。また、協力研究、施設利用は随時申込を受付中です。詳しくは、<http://www.ims.ac.jp/joint/joint.html>をご覧ください。